

コンピューターで駄ジャレを分析する研究者の意欲

朝日 vs. 文春といえ、宿怨深き大猿の伸。しばらく停戦状態かなと思っていたら、久々に勃発しましたねえ、「アエラ駄ジャレ」論争。

二号前の本誌特集「バカにつける薬」で、呉智英さんが雑誌『アエラ』の車内吊りなどに載っている一行コピーを「日本文化の恥」と一刀両断。それに対し、さっそくアエラが「編集長敬白」で「ここまで言われると快感で

【朝日新聞 4月26日付朝刊より】
「だじゃれ」のおかしさとは何か。神戸市西区にある郵政省通信総合研究所関西先端研究センターで、こんな研究が進められている。主任研究官の滝澤修さん(34)が、だじゃれのほか「君は天才だね」といった皮肉など、話し言葉の「隠された意味」をコンピューターに理解させようと8年前から取り組んでいる。
研究によれば、だじゃれの面白さを決める要素は、音の数をそろえる、品詞を変える、価値の落差をつけるの三つ。下手なだじゃれを連発しては家族や同僚から冷たくあしらわれるあなた、この極意を学べばだじゃれ名人になれる……かもしれない。(要約)

りなご、とうてい不可能に思える。しかしその笑い——しかも「駄ジャレのおかしさ」をコンピューターで解きあかそうという研究があるとの記事を発見!
「研究所は神戸というから、関西圏。やつぱりお笑いがないと生きていけない人たちのなかから」
「コンピューターはボケ役ですかね、つつこ

み役ですかねえ」
などと文系出身まるだしの会話を交わしつつ、編集者T君と私は神戸へと向かったのだ。目指す郵政省通信総合研究所関西先端研究センターは、神戸市の西のはずれ。ヒバリ鳴くのかな田園の真ん中であつた。
「大きいえば、人間にとつて親しみやすいコンピューターの開発。私たちは、そのための基礎的な研究を行っているのです」と、と素人ふたりを相手に噛んでふくめるように解説してくださつたのは、当研究センター「知的機能研究室」主任研究官の滝澤修さん(34)。今回話題の「駄ジャレの研究」というのも、そのためのステップの一つなのだという。はあ、作業が行き詰まったとき駄ジャレの一つもかまして、テクノストレスの解消を狙うとか?

「……まあ、そうした研究もいざれ進むかもしれませんが、まずは駄ジャレも含めて、人間の言葉に含まれる言外の意味——いわば隠された意味をいかにコンピューターに理解させるか、これが課題なんですよ」
これまでコンピューターは、非常にシンプルで一般的な表現しか扱えないとされてきた。たとえば自動翻訳システムでいうと、コンピューターは言葉の意味をバカ正直に訳すだけで、微妙なニュアンスまでは理解不能。だから小説や詩、あるいは話し言葉などはお手上げというのが常識だった。でも「これは難しいからコンピューター君には無理」と避けてばかりじゃ、進歩も望めないってもの。
そこで滝澤さんは、文字通りのものとは違う意味を持つ言葉のサンプルとして、「駄ジャレ」に注目。そこから研究をスタートすることにしたのだ。

まずデータを集めるために、大学生約五十人に「考えつくだけ書き出して」と依頼をし、約三百例の駄ジャレを収集。
「一人三千円でしたが、ひねり出すのに数時間かかった人もいたよだから、あまりいいバイトじゃなかったでしょうね(笑)」
そして得られたデータを詳しく分析したところ、まず駄ジャレには、「速え蠅」「あの囲いはカッコいい」(ちよっと書いててトホホだけど、分かりやすい例って

こと許して) など、音的に似た単語を使ったものが多いことが分かった。
「つまり、人間が聞きまちがいやすい発音を使うわけですよ。その言葉はコンピューターが音声を認識するうえで間違えがちと考えられる。駄ジャレに多く使われる発音を調べること、コンピューターが苦手な発音がはつきりしてきたんです」
さらに「ある、プスの少女」など、価値の落差が笑いを生むという駄ジャレもある。うーむ、この面白さをコンピューター君に分かってもらうのはそうとう難しそうだ。だって、「アルプスの少女」は可愛いという共通認識があること、「プス」は女性一般に言う悪口である、「プス」と「プス」は似ているetc. この駄ジャレの裏にある何層もの「隠れた意味」を教える必要があるから。

「確かに難しい。でもこの研究は、人間の言葉がどんなふうに出てくるか、何をもち「面白い」と感じるかをコンピューターに理解させるための、重要なヒントになるはずだ」
これを詳しく説明していくと、哲学的な話になっちゃうんですよねと笑う滝澤さん。いえ、すでに十分深いお話。たかが駄ジャレと思つてホイホイ取材に来た私たちが甘かつたです。

ことで許して) など、音的に似た単語を使ったものが多いことが分かった。
「つまり、人間が聞きまちがいやすい発音を使うわけですよ。その言葉はコンピューターが音声を認識するうえで間違えがちと考えられる。駄ジャレに多く使われる発音を調べること、コンピューターが苦手な発音がはつきりしてきたんです」
さらに「ある、プスの少女」など、価値の落差が笑いを生むという駄ジャレもある。うーむ、この面白さをコンピューター君に分かってもらうのはそうとう難しそうだ。だって、「アルプスの少女」は可愛いという共通認識があること、「プス」は女性一般に言う悪口である、「プス」と「プス」は似ているetc. この駄ジャレの裏にある何層もの「隠れた意味」を教える必要があるから。

「確かに難しい。でもこの研究は、人間の言葉がどんなふうに出てくるか、何をもち「面白い」と感じるかをコンピューターに理解させるための、重要なヒントになるはずだ」
これを詳しく説明していくと、哲学的な話になっちゃうんですよねと笑う滝澤さん。いえ、すでに十分深いお話。たかが駄ジャレと思つてホイホイ取材に来た私たちが甘かつたです。

三面記事 探検隊がゆく



取材文 山田 真理 隊員
51
小沢利夫 画

こうした駄ジャレの研究を出発点に、滝澤さんは「君は頭がいいねえ」といった皮肉、「約束は約束だ」などのトートロジー（同じ言葉を反復して、言外の意味をもたせる）など、さらに高度な「隠れた意味を持つ言葉」の研究を進めている。

その研究論文のなかで、たまたま駄ジャレの部分が新聞に取り上げられたことで「駄ジャレの専門家のように言われるのは、ちょっと……」といささか困惑してみんだとか。というのもあの記事が出てから滝澤さんの元には、ラジオの取材六本に、テレビの出演依頼が二本（中にはガハハの和田勉と共演なんて困った企画も）、その他にも本を書きませんか、講演をお願いしたいなど問い合わせが殺到。あわわ、重ね重ねスミマセン、そんなお忙しいところへお邪魔して……恐縮する探検隊に、「いえ、いいんですよ。こうした地味な基礎研究を、こうして皆さんに知っていただくだけで」とおだやかに微笑む滝澤さん。日常会話から駄ジャレを検索するシステムを『DUJAL（ダジャール）』と名付けたりするお茶目さも持ちながら、やはりどこまでも真面目な方なのだ。

ノリノリの実践派
さて「駄ジャレとは何か」を

探る、今回の探検。

「理論派の説を聞いたからには、やはり実践派のお話も聞くべきじゃないでしょうか」といきこんでT君が見つつけてきたのが、笑いを愛する皆さんの集まり「同業会ジョークサロン」。会の名前は、どうしようか、と考えて命名。全国に発信する会報は「伝笑鳩」と、ネー



ミングからして実践派の心意気がびしびしと伝わってくる。これはなかなか濃い霧囲気になりそうだがおと覚悟しつつ、伝笑鳩の「変集鳥」で会の代表をつとめる野本浩一さんを始め四人のメンバーが集まっていたのだが、案の定、「あんまりシャレばかり言うか

ら、家族が『もうやめなシャレ』」「そればかり考えてる人を、『シャレ頭』という」
「それで『しゃれい』がもらえれば、まあ良しとして」
など、ビールの乾杯もそこそこに展開されるオジサマたちの熱いジョークの応酬に、若造の我々は最初から押されっぱなし。

コンピュータと駄ジャレという今回の話題に関しては、「面白いと思うけど、笑いに大切なTPOってものをコンピュータがどれだけ理解するかは疑問。どんなにいいシャレも間を外したらつまらない」「おシャレじゃないね」
ははあ。では良質なジョーク

と駄ジャレの違いとは？

「駄ジャレは、それだけボンと言わなければならないんですよ。たとえば僕は『アジノモト』とあだ名を付けられて、ある時その電話で呼ばれたから『ハイ、ミーです』と答えたら、これはウケましたよお(笑)」

と野本さん。つまり、駄ジャレも意味が重層的になればなるほど面白くなると。この説、意外にも滝澤さんの理論と近いのである。日夜ジョークに頭を悩ませ、時には徹夜までして作品を練り上げる実践派ならではの「ジョーク道」と、コンピュータを駆使してたどりついた結果がはからずもシンクロするとは、うーむ、駄ジャレの世界はやっぱ奥が深かった！

この偶然の一致に強く感銘を受けた我々は、これを記念してコンピュータをお題に同業会の皆さんに駄ジャレをひねっていただいた。

「キイをたたいでも変換しません——そりゃ奇異だ」

「マウスは？——ここにありませうす」

「コンピュータ、上手く使えず困窮だ」

「ソフトってひらめきが大事だよね——そー、ふと思いつくんだよ」

「こりやまた、お後がよろしいようです」

二日酔いのむかつき。食欲不振に。
ツムラの胃腸内服液、ゼロイン。

「使用上の注意」をよく読んで正しく服用して下さい。